

## 研究部会報告



### ● AHP の世界 ●

#### ・第6回

日 時：5月31日(火) 14:00~17:00

出席者：13名

場 所：(財)電力中央研究所 大手町第1会議室

テーマと講師：

(1)「限定合理性という概念からみた AHP の意味と解釈」

木下栄蔵 (名城大学)

概 要：サイモンによって概念化された限定合理性の概念との関連で、効用理論などの他の意思決定方略と比較してサーティによる AHP と木下・中西による支配型 AHP の意味と意義を考察した。

(2)「認知心理学からみた AHP」

石井加代子 (文部科学省)

概 要：認知科学では、1)領域特異的知識・必要な情報の迅速な選択、2)感情等による価値判断(情報の重み付け)、3)複数の並列階層・関連に渡る情報の同時解析が、意思決定に必要とされる。この他、非言語的思考・生物学的制約・自己関与意識などが、影響する。又、複数の不確かな情報を基に、相加的判断を下す事もあり得る。

#### ・第7回

日 時：8月4日(木) 14:00~17:00

出席者：11名

場 所：(財)電力中央研究所 大手町第1会議室

テーマと講師：

(1)「文科省技術予測調査における集団 AHP による市民ニーズ把握の試み」

鈴木 潤 (芝浦工業大学)

概 要：一般市民が抱く様々なニーズとその重みを把握する試みの紹介。一般市民を対象として、ツリー状に構造化したニーズ項目の重要性をペア比較してもらう WEB アンケートを実施し、得られた 4310 人の回答を AHP 法によって集計した。また、集計結果にはクラスターサイズの違いを反映するために補正を加えた。

(2)「金融工学における AHP の利用例」

宮崎浩一 (電気通信大学)

概 要：証券投資における既存モデルの問題点が提起され、AHP を利用することにより問題点に関するある程度の解決が可能であるとの説明があった。AHP を利用したポートフォリオは、僅かながら期待リターンが平均分散モデルの最適ポートフォリオに劣るものの、十分に分散化されたポートフォリオの構築が可能であることが具体例を通じて示された。

#### ・第8回

日 時：10月4日(木) 14:00~17:00

出席者：15名

場 所：名城大学 都市情報学部

テーマと講師：

(1)「行政評価と AHP について」

佐藤祐司 (三重中京大学)

概 要：三重県における行政監査・評価の実態と、その評価プロセスに対する AHP の導入事例を紹介した。具体的には、基本事業の施策に対する寄与度の決定に際して、その透明性と説明能力を高めるために、AHP がどのように応用されているのかについて、その概要を述べた。

(2)「なぜ今効用関数のかわりに AHP/ANP が必要なのか？」

木下栄蔵 (名城大学)

概 要：効用関数は理論としては完璧であるが、実際問題において効用関数を推計することは、ほとんどの場合は不可能である。実際問題においては、一対比較を繰り返すことにより評価可能な AHP が有効である。ただし、代替案の評価値は合計を 1 に規格化せずに、最大値を 1 に規格化しないと順位逆転等がおこり、奇異な結果になる。

(3)「AHP とロジットモデルの関係とその応用例」

尾崎都司正 (名古屋学院大学)

概 要：バーナード、サイモン、サーティの考え方を発展させ、情報化投資の評価項目を組織の発展目標とらえ、情報化投資が利用者へのサービスの計量化を行うため、効用関数理論の視点から AHP と Logit-model を結合して、費用便益分析を試みた。その結果、定性的効果が大きいことを実例で示し、情報化投資の新たな費用便益分析方法を提案した。

#### ・第9回

日 時：12月13日(火) 14:00~17:00

出席者：24名

場所：(財)電力中央研究所 大手町第2会議室

テーマと講師：

(1)「海外における行政マネジメントへのAHPの活用事例」

河邊隆英 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

村松恵子 (国際開発救援財団)

杉田布美子 (パシフィックコンサルタンツ株式会社)

概要：欧州、米国、アジアなど、海外におけるAHPの行政運営への活用事例を紹介した。特に活用事例の多い米国を取り上げ、個別事業の検討や予算配分の際に、AHPにより導かれる代替案の優先順位を意思決定に用いる事例や、AHPを検討する過程を通じ、住民の合意形成等に活用した事例を紹介した。

(2)「市民意識調査とAHP」

山本辰久 (日本総研)

概要：市民意識調査にAHPを活用した事例として、大阪府下の2市において、総合計画策定に先立ち、政策分野の重要度評価を行ったケースを報告した。いずれも、一定の成果は得たものの、総合計画策定の過程では必ずしも十分に活用されたとは言えなかったため、今後自治体によるAHPの利用を広げるための課題についても議論した。

(3)「AHPにおける評価値一斉法と総合評価値一斉法について」

杉浦伸 (名城大学大学院)

概要：AHPの発展モデルにおいては評価基準の重みが不安定である場合に意思決定をするモデルとして、SaatyのANPやKinoshita・Nakanishiによる手法がある。本発表では評価値一斉法と総合評価値一斉法について説明し、評価値の修正や、総合評価値の一斉法の解説を行い、一斉法の体系を説明した。

## ● OR/MS とシステムマネジメント ●

・第3回

日時：11月26日(土) 14:00~17:00

出席者：20名

場所：東京工業大学百年記念館 第1会議室

テーマと講師：

(1)「エンタープライズモデリング手法の分類とその適用」

飯塚佳代 (榊野村総合研究所/NRIセキュアテクノロジーズ(株)・主任研究員)

(2)「エンタープライズモデリングへの取組みにおける日本の課題」

松本巖 (有)ジール・代表取締役)

概要：企業の業務の記述に焦点を当てマネージメントを分析する手法として注目されているエンタープライズモデリングについて、まず飯塚氏によりその概説がなされ、引き続いて松本氏により最近の研究動向、ならびに最新の研究成果について報告された。そしてそれをもとに、同手法による経営戦略の表現可能性から、IBMが提唱したBusiness System Planning (BSP)との関係にいたるまで、様々なトピックについて参加者との間で活発な意見交換が行われた。

## ● 評価のOR ●

・第13回

日時：12月10日(土) 14:30~17:30

出席者：64名

場所：政策研究大学院大学 (港区六本木)

テーマと講師：

「Guidelines and 'secrets' in the preparation of manuscripts for scholarly English language journals.」

Professor Barnett Parker (Pfeiffer University)

概要：技術英論文を書く際の留意事項として、大事な五つのW；Who, What, When, Where, and Why, 論文の構成法, 論文の用語, 論文の改訂プロセス, 図表の有効利用法, 東洋人と西洋人の書く論文の相違点, 等について, 具体例を交えながら説明した。